

2024 年

一級建築士 設計製図の試験「課題の概要説明会」

課題名 **大 学**

- I. 学科試験の結果
- II. 課題の分析
- III. TACオリジナルプラン
- IV. 合格のために不可欠な要素
- V. TAC設計製図コース講座について
- VI. 開講までの準備

資格の学校  
**TAC**

## I. 学科試験の結果

### TACの合格推定点

TACでは合格推定点を次のように考えます。

#### ■総得点

**94点**

#### ■科目基準点

計画 11 点、環境 11 点、法規 16 点、構造 16 点、施工 13 点（各科目過半）

上記の合格推定点はTACが独自に集計しているデータリサーチを基に推定したものです。  
以下に令和4年、5年のデータと今年のデータを掲載します。

	TACデータリサーチ結果						本試験 合格 基準点
	計画	環境・設備	法規	構造	施工	総得点	総得点
令和4年平均点	14.7点	15.6点	23.1点	21.9点	16.0点	91.2点	91点
令和5年平均点	13.7点	12.9点	22.6点	22.0点	17.1点	88.4点	88点
令和6年平均点	13.0点	15.2点	23.4点	23.6点	18.6点	93.8点	9月4日発表

令和4年はTACデータリサーチが91.2点、合格基準点が91点、  
令和5年はTACデータリサーチが88.4点、合格基準点が88点であったことを踏まえて、  
令和6年はTACデータリサーチが93.8点であることから、  
令和6年の合格基準点は94点と推定します。  
なお、令和4年、5年とも科目基準点の補正はありませんでした。  
令和6年の科目基準点もないと推定します。

上記の合格推定点にわずかに達しない方については、  
令和2年の建築士法改正により学科試験に合格した後、  
5回のうち任意の3回の設計製図試験を受験できるようになったことを踏まえて、  
合格に自信が持てず中途半端な気持ちで設計製図試験対策を始めるよりは  
9月4日の学科試験の合格発表を待って、めでたく合格された際には  
翌年の設計製図試験に向けて課題発表前の早期から対策を始めるという選択肢もありますので、  
ご検討ください。また、次の制度もご確認ください。

#### TAC設計製図本科生特別返金制度

令和6年学科試験の合格発表日（9/4 予定）から3日以内の解約申し入れにつきましては、TAC  
が公表した合格推定点（94点）から2点以内、つまり**92点以上**の場合はお支払いの設計製図本科生  
受講料から¥30,000を除き返金します（入会金は除く）。

## Ⅱ. 課題の分析

### ■課題名

# 大学

### ■要求図書

- ・ 1階平面図・配置図（縮尺 1/200）
- ・ 各階平面図（縮尺 1/200）  
※各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定する。
- ・ 断面図（縮尺 1/200）
- ・ 面積表
- ・ 計画の要点等

### ■建築物の計画に当たっての留意事項

- ・ 敷地の周辺環境に配慮して計画する。
- ・ バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
- ・ 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。

### ■大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする。

- ・ 建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
- ・ 構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
- ・ 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

#### 【昨年からの変更点】

近年多発している大きな地震においても建築物が安全に使えるような構造計画が求められています。

### ■注意事項

「試験問題」及び上記の「建築物の計画に当たっての留意事項」を十分に理解したうえで、「設計製図の試験」に臨むようにしてください。

なお、建築基準法等の関係法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不適合又は不十分な場合には「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合」等と判断されます。

## 公表内容の分析

### 1. 「要求図書」について

「要求図書」の公表内容は、昨年と全く同じです。

平面図については、「各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定する。」と示されました。これは**計画建築物の階数**が試験当日の「**課題文で示される**」または「**課題文にも示されない(階数自由)**」ということになります。建築物の階数が試験当日まで分からないというのは、令和2年から5年続いて示されているので「**近年の定番**」です。どんな階数の建築物でも対応できるような対策が必要でしょう。また、平面図は3面求められることが多いので、このような要求の場合は、次のようなパターンが考えられます。

- |                                   |
|-----------------------------------|
| ① 「1階平面図・配置図」「2階平面図」「3階平面図」       |
| ② 「地下1階平面図・配置図」「1階平面図・配置図」「2階平面図」 |
| ③ 「1階平面図・配置図」「2階平面図」「基準階平面図」      |
| ④ 「1階平面図・配置図」「基準階平面図」「最上階平面図」     |

### 2. 「建築物の計画に当たっての留意事項」について

「建築物の計画に当たっての留意事項」の公表内容は、昨年と概ね同じです。

この部分は抽象的な内容ではありますが、採点に大きく関わる非常に大事なところ。「注意事項」にあるとおり、「十分に理解したうえで」試験に臨まなければなりません。

また、今年は「大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする。」という一文が追加されました。令和6年の能登半島地震で大きな被害を受けた建築物もあったことも影響しているかもしれません。**耐力壁をはじめとした構造計画に関する学習**もしておくべきでしょう。

なお、「**二酸化炭素排出量削減**」という項目が一昨年から加わりましたが、今年も引き続き、「**省エネ**」や「**創エネ**」に関する学習は必要です。

### 3. 「注意事項」について

「注意事項」の公表内容は、昨年と全く同じです。

建築基準法令等の関係法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不十分な場合には、「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合」、つまり「失格」と判断されます。

ここに昨年から「関係法令」という文言が追加されていますので、今年も建築基準法だけではなくバリアフリー法等の関係法令についても配慮する必要があります。

## 用途の分析

「大学」の出題は、過去の類似の課題としてはなく、**初出題の用途**です。

強いて言えば、平成25年の「大学のセミナーハウス」がありますが、大学本体ではなく宿泊・研修施設の用途でした。「大学」と一言で言っても非常に幅広い定義であり、文系、理系、医学系等の学部によって必要な施設も異なることから、設計製図の試験としては、非常に対策の立てにくい用途であると言えるでしょう。なお、学科試験においても過去に「大学」について出題は事例以外ほぼありません。

### 1. 大学に必要な施設

大学設置基準では、大学は少なくとも以下の施設を備えた校舎を有するものとしています。

- (1) 学長室、会議室、事務室
- (2) 研究室、教室（講義室、演習室、実験・実習室等）
- (3) 図書館、医務室、学生自習室、学生控室

一般的には、大学はキャンパス内の様々な用途の建物群で構成され、使用用途によって本部棟、講義棟、研究室棟、図書館、食堂、体育館、グラウンド等、実に多くの用途の建物から構成されます。また、理系学部である、医学部、理工学部、農業部等が加われば、さらに病院、実験研究施設等の施設が必要となるでしょう。

#### 都市型キャンパスの例



提供：明治大学



高層棟(リバティタワー)



エントランスホール



教室(講義室)



中央図書館



学習・交流・リフレッシュスペース





学生食堂（スカイラウンジ）（17F）



屋上広場（陽だまり広場）

写真提供：明治大学

## 2. 大学に求められる機能

近年の国立大学等には、大学本来の役割である教育研究の基盤としてだけでなく、以下のようなものが求められています。

### (1) 地域における人材育成の拠点

### (2) 産業振興の中核としての機能

→企業や地方自治体と連携し、新たな産業の創出や地域産業の高度化を推進。

### (3) 地域防災の拠点

→災害の際には、地域住民を受け入れる**避難所**としても機能。

### (4) 地域のカーボンニュートラル※に向けた脱炭素化の拠点

→キャンパスの**省エネ化**や**ZEB化**により、地域の脱炭素化に貢献。

〔※カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出を「排出量」から、植林、森林管理等による「吸収量」を差し引いた合計を実質的にゼロにすること。〕

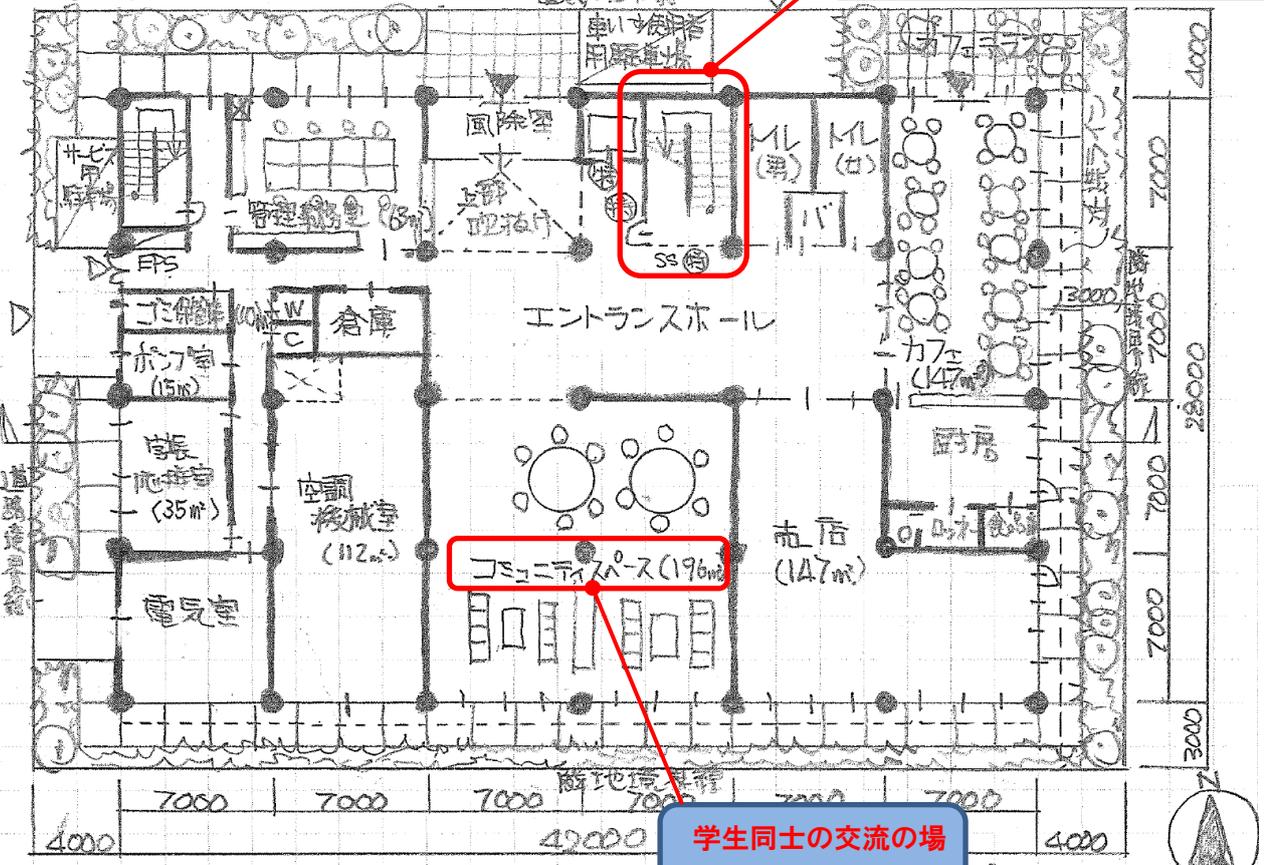
## 3. 法規について

近年の試験では、法規に関する条件への適合が「合格に必須」となっています。これまでの試験では「建蔽率」、「容積率」、「道路高さ制限」、「延焼のおそれのある部分」、「防火区画」、「避難規定（歩行経路、歩行距離、重複距離、敷地内通路）」等についての適合が求められてきました。さらに、昨年の試験では「北側斜線制限」が初めて出題され、多くの受験生が抵触して「失格」となってしまったことから、法規の対策は徹底しておくべきでしょう。なお、**大学の教室**については、**建築基準法上の法的な「採光」が必要**となります（有効採光面積/居室の床面積 $\geq$ 1/10）。

### Ⅲ. 令和6年一級建築士設計製図【大学】TACオリジナルプラン（暫定版）

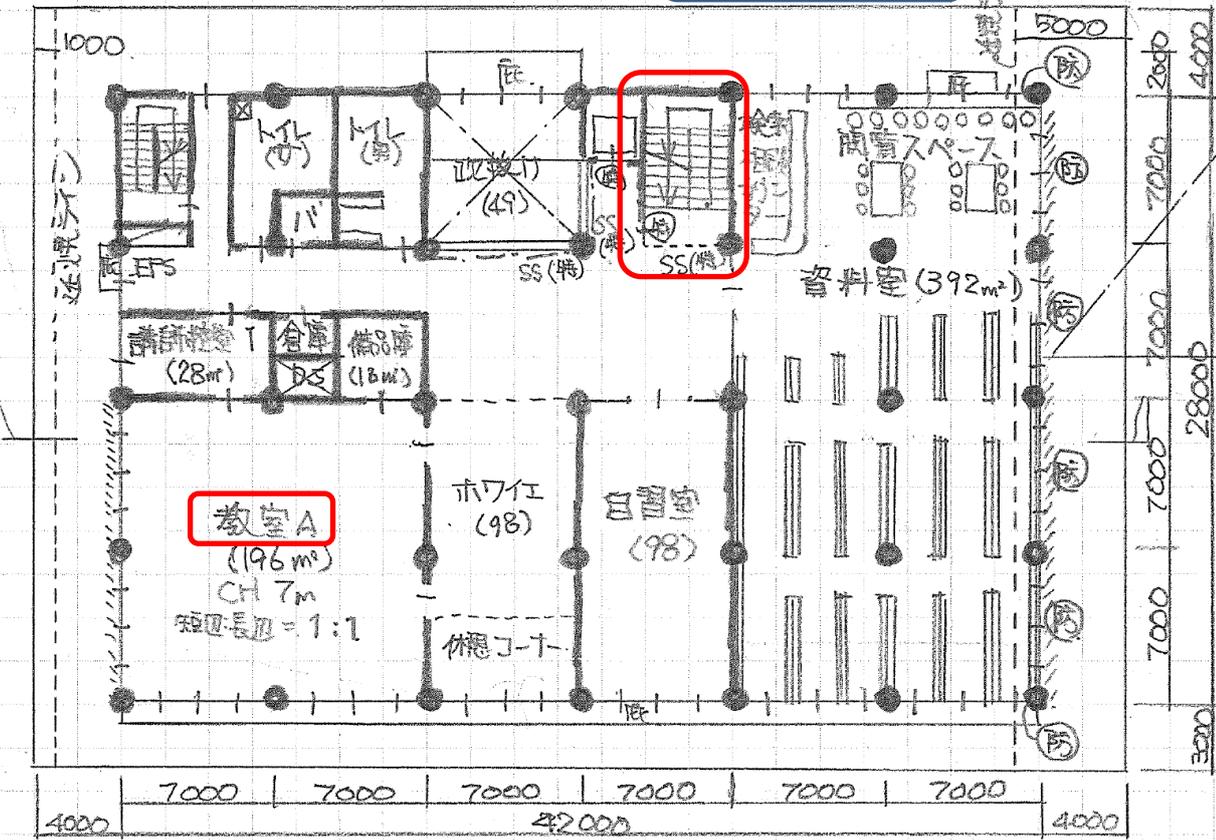
蹴上げについては、円滑化基準(基準法と同じ)に適合した寸法で計画しています

1階平面図・配管図 縮尺 1/200



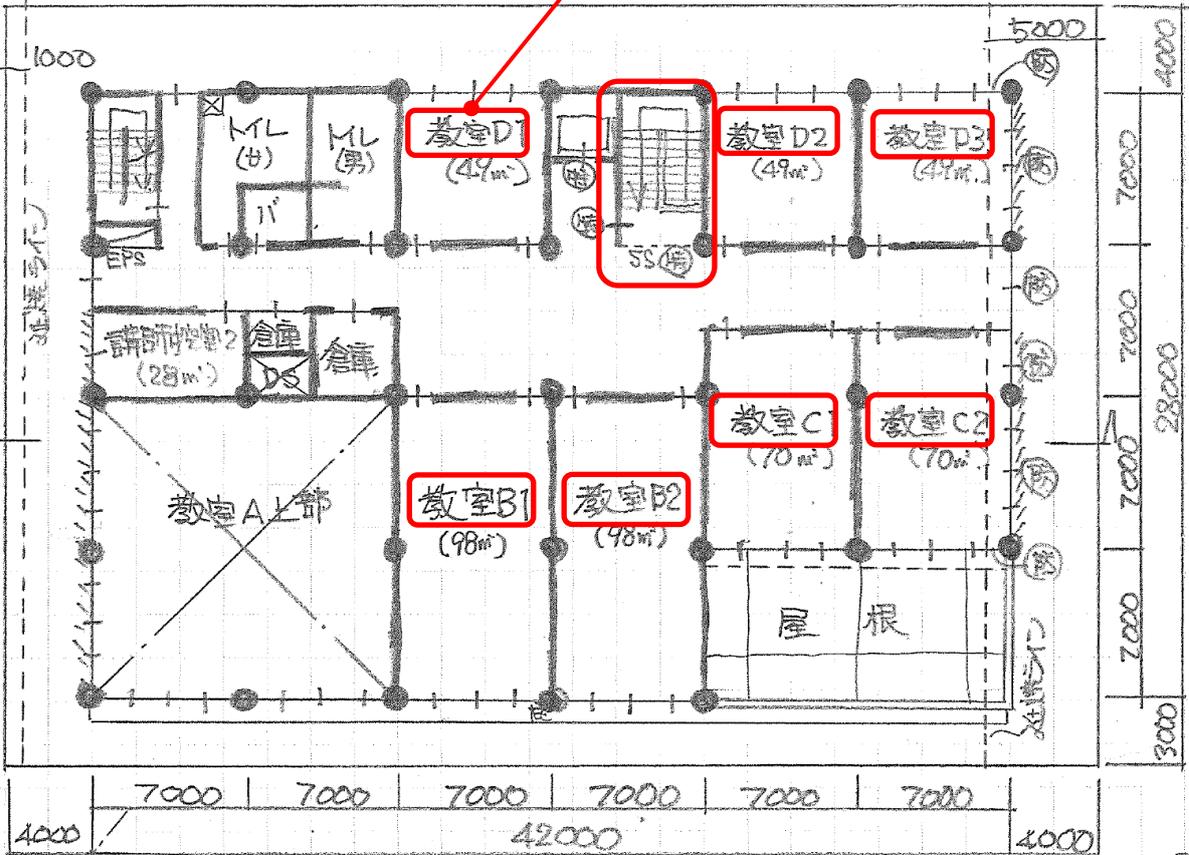
学生同士の交流の場を計画した例です

2階平面図 縮尺 1/200

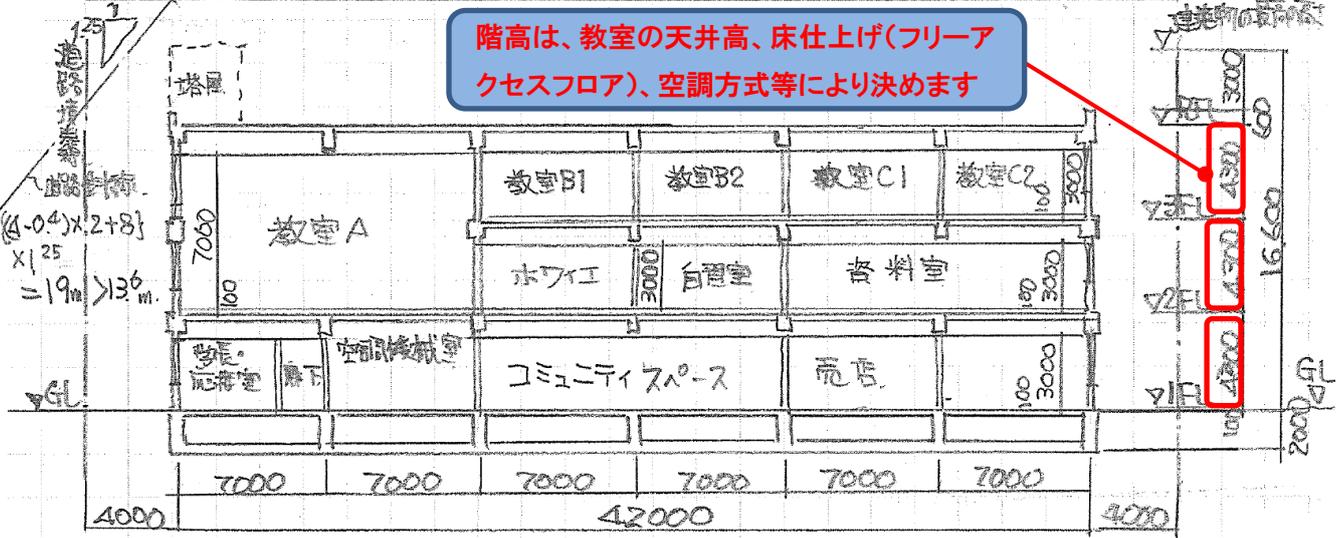


大中小、いろいろな教室(講義室)のバリエーションが想定されます

3階平面図 縮尺 1/200



階高は、教室の天井高、床仕上げ(フリーアクセスフロア)、空調方式等により決めます

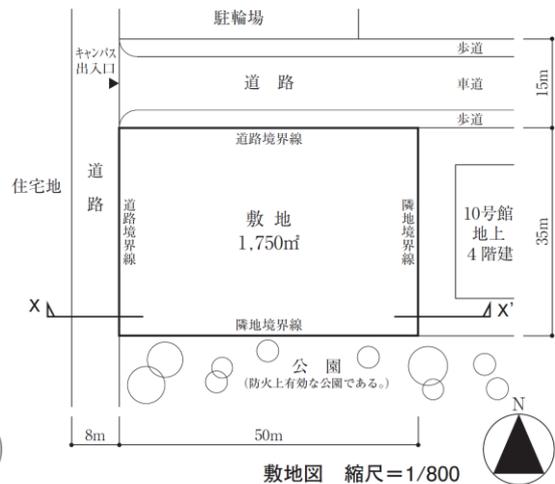
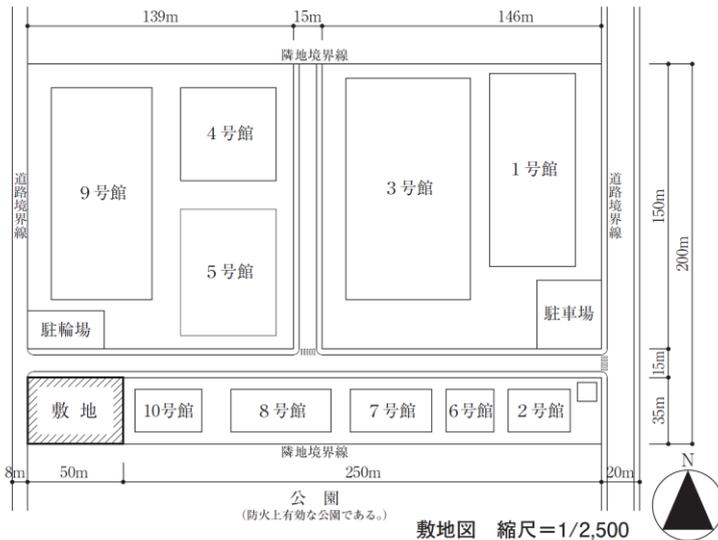


断面図 縮尺 1/200

建築面積	$42 \times 28 + 7 \times 1$ (北側庇)	$1,183.0 \text{ m}^2$
3階	$28 \times 28 + 14 \times 21 - 14 \times 14$ (教室A上部)	$= 882.0 \text{ m}^2$
2階	$42 \times 28 - 7 \times 7$ (吹抜け)	$= 1,127.0 \text{ m}^2$
1階	$42 \times 28$	$= 1,176.0 \text{ m}^2$
		<b><math>3,185.0 \text{ m}^2</math></b>

本計画のような3階建て程度の建物(低層階タイプ)や5階建て程度の(基準階タイプ)の学習が必要です

## 【※TACオリジナルプランの敷地条件】



## Ⅳ. 合格のために不可欠な要素

### 1. 課題文の読み取り力

要求された条件に対し適切に解答するには、課題文を正しく読み取ることが不可欠です。マーカー等により、読み落としや読み間違いをなくす対策が重要となります。

### 2. ゾーニングと動線計画が適切なプランニング力

設計製図試験では、空間構成で足切りにすると明示されています。ここで空間構成とは、ゾーニングや動線計画あるいは建築物の立体構成を指すと考えられます。

### 3. 作図における表現力とスピード

過去の合格者は、本試験までの期間に少なくとも20枚以上の答案を作成しています。作図については、表現力とスピードをアップするため、ある程度の練習量をこなすことが合格には不可欠です。

### 4. 図面に対応した計画の要点を記述する力

計画の要点は、「問われたこと」に対して、「図面と整合した内容で記述すること」が最低限求められます。事前に記述の要領を覚え、明快な文章を書く練習をしておく必要があります。

### 5. 図面を自己チェックする力

自分の計画、図面に漏れ落ちがないか、チェックすることが合格に不可欠です。とくに、「法令違反」は即「失格」となるので、絶対に落としてはいけません。

## V. TAC設計製図コース講座について

### 1. TACの指導方針

① **完全消化できる厳選した課題を提供する。**

上記で述べた作図力、プランニング力、チェック力を付けるために、一つ一つ確実に消化できる練習課題を提供します。一つの課題についてプランB、プランCと何度もやり直す（リトライする）ことによって、本当のプランニング力が養成されます。

② **サプライズを当てにいかない。**

「設計条件を簡素化（シンプル化）する」という新試験制度に基づき、練習課題はオーソドックスな内容とし、奇抜な条件の設定はしません。

③ **一貫したプランニングの定石を指導する。**

「設計の自由度を高める」という新試験制度に基づき、練習課題は基本的なプランニングが学習できる内容とし、定石が通用しないような設定はしません。

④ **ゾーニング・動線計画を徹底指導する。**

プランニングの軸となるゾーニング・動線計画については、利用者の視点に立った全体構成に重点を置き、細部にこだわらない指導を徹底します。

⑤ **メリハリのある作図表現を徹底指導する。**

図面の印象度は線種の使い分けにより左右されます。文字を含めて図面がメリハリのある表現となるような指導を徹底します。

## 2. 開講コース

### ① スケジュール・講義内容等

「発表課題に基づき、基礎から合格レベルまでの作図力・設計力を指導します！」  
 学科試験を受験される方が、試験後から学習をスタートさせ、発表された建物用途に特化した「実践的な学習」を行います。  
 作図の基礎も学習しますので、はじめて設計製図試験を受験される方も安心です

▶設計製図本科生日程表（当年度課題発表後）

無料体験可能（要予約）（製図用具必要）

■教室講座・オンラインライブクラス 講義時間9：30～18：00(休憩1時間含む)

※教室講座は、定員に達し次第、申込締切とさせていただきます。  
 締切になったクラスは無料体験できません。  
 ※オンラインライブクラスは無料体験はお受けしておりません。

回	日程					課題	講義内容(予定)	製図用具
	土曜クラス	日曜クラス	水曜クラス	Web視聴開始日	Web通信教材発送日			
1	8/3(土)	8/4(日)	8/7(水)	8/9(金)	8/7(水)	課題1	・試験の概要、R6年度課題の特色、構造・設備の基礎知識 ・製図用具の使い方、基礎製図、作図手順（平面図・断面図） ・作図練習課題を使った作図練習（トレース）	必要
2	8/10(土)	8/11(日)	8/14(水)	8/16(金)	8/16(金)	課題2	・法令の留意点を学習する・課題文の読み取りポイント、作図表現上の注意点の学習 ・文章表現の意味、計画の要点記述の書き方の学習 ・巡回指導・宿題返却指導	
3	8/17(土)	8/18(日)	8/21(水)	8/23(金)	8/21(水)	課題3	・課題文のマーカークの仕方、読み取り ・エスキスの仕方、エスキス実習、作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導	
4	8/24(土)	8/25(日)	8/28(水)	8/30(金)	8/28(水)	課題4	・採点ポイントの理解・自己チェックの養成 ・エスキス実習→自分のエスキスからの作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導	
5	8/31(土)	9/1(日)	9/4(水)	9/6(金)	9/4(水)	課題5	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
6	9/7(土)	9/8(日)	9/11(水)	9/13(金)	9/11(水)	課題6	・模擬試験(1)による実力確認	
7	9/14(土)	9/15(日)	9/18(水)	9/20(金)	9/18(水)	課題7	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
8	9/21(土)	9/22(日)	9/25(水)	9/27(金)	9/25(水)	課題8	・模擬試験(2)による実力確認	
9	9/28(土)	9/29(日)	10/2(水)	10/4(金)	10/2(水)	課題9	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
10	10/5(土)	10/6(日)	10/9(水)	10/9(水)		課題10	・課題10のエスキス+作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導 ・直前確認事項と総復習	

土曜クラス：仙台校・水道橋校・新宿校・池袋校・渋谷校・横浜校・名古屋校・京都校・梅田校・なんば校・**広島校(新設決定!)**・福岡校  
 日曜クラス：札幌校・新宿校・池袋校・八重洲校・立川校・町田校・横浜校・日吉校・大宮校・津田沼校・名古屋校・梅田校・なんば校・神戸校・広島校・福岡校  
 水曜クラス：新宿校・**梅田校(新設決定!)**・**オンラインライブクラス(新設決定!)**

#### オンラインライブクラス生へのご案内

<ブレ講義を開催します> 7/31(水) 14:00～15:30  
 使用する学習管理プラットフォーム：Schoo Swing (スクー swings) の操作方法についての説明会です。学習環境・通信環境への不安を解消して開講を迎えましょう。  
 参加が難しい方はアーカイブ配信にてご視聴ください。  
 ※参加方法はTAC WEB SCHOOLマイページトップに掲載しております。

<教材発送>  
 Web通信の教材発送スケジュールとは異なります。  
 TAC WEB SCHOOLマイページトップに掲載しておりますので、ご確認ください。

★Web通信生の添削は、課題2・4・6・8の4つになります。教室生・オンラインライブ生は全9課題（課題10はプランチェックのみ）添削します。

●カリキュラム、課題数は、発表される課題内容や試験分析に基づき変更となる場合があります。

オンラインライブ生も参加OK

#### ◆【Web生限定】オンラインスクーリング ※担任：大屋講師

「ひとりで製図対策を進めるのは不安」「他の人はどのくらいのレベルなの?」「質問や相談に即時で答えてほしい」等、通信生には色々な不安や悩みがあると思います。TACでは通信生にも担任制を導入し、課題発表後から2週間に1回程度のペースでオンラインスクーリングを実施します  
 他の受講生の答案を共有しながら作図やエスキスのポイント、ミスしがちなところを解説し丁寧に課題のフォローアップを図ります。  
 そして終了後には、毎回質問会も開催!みなさんのお困りごと解消&モチベーションUPの後押しができればと考えておりますので、本試験まで一緒に粘り強く取り組んでいきましょう!

[参加方法] 実施前日までに、TAC WEB SCHOOLマイページトップに、参加用のURLを掲載いたします。  
 [準備物] インターネット通信環境、Zoomが使える端末（スマートフォン、タブレット端末、パソコン等）

回数	日程	※変更になる場合はTAC WEB SCHOOLマイページにてご案内いたします。
第1回	2024年 8/14(水)19:30～	
第2回	2024年 8/28(水)19:30～	
第3回	2024年 9/11(水)19:30～	
第4回	2024年 9/25(水)19:30～	
第5回	2024年 10/9(水)19:30～	

25歳以下の方必見

再受講割引制度 同一級に限ります

通常受講料より  
**一級 30%割引!**  
**二級 40%割引!**

過去にTACで「総合設計製図本科生」「設計製図本科生」を受講されていた方が、再度「総合設計製図本科生」または「設計製図本科生」のどちらかを受講される場合、再受講割引が適用になります。

※他の割引制度との併用はできません。

アンダー25コースについて

通常受講料より **¥22,000割引!**

講座お申込み時点で26歳のお誕生日を迎えていない方、または学生の方は、2024年合格目標「総合設計製図本科生」「設計製図本科生」の受講料を¥22,000割引します。お申込み時に身分証明書または学生証を確認します。

※早割・セット申込割引・学科生割引に対応したアンダー25コースもあります (右ページ)。  
 ※他の割引制度との併用はできません (TAC取扱代理店 (大学生協・書店等) 割引は除く)。

返金制度について

開講前返金

講座開始日前の解約の申し入れにつきましては、受講料全額を返金いたします (入会金¥10,000を除く)。

※講座開始日とは、教室講座の開講日、ビデオプールの視聴開始日、通信メディアの初回発送日を行います。

設計製図本科生 特別返金制度

2024年学科本試験の合格発表日から3日以内の解約申し入れにつきましては、TACが2024年学科本試験翌日に公表した合格推定点から2点以内の方に限って、¥30,000を除いた受講料を返金いたします (入会金¥10,000を除く)。

設計製図本科生 返金制度の概要 同一級に限ります



返金制度の  
注意事項

- ※各返金制度の返金対象には、入会金¥10,000 (10%税込) は含まれません。
- ※各返金制度をご利用の方は、返金後は対象コースを引き続き受講できません。また、付随する教材類も返却していただきます (通信講座の方は発送済の教材類をお客様の送料負担でご返却いただけます)。
- ※各返金制度の振込手数料は、お客様負担になります。
- ※各返金制度の利用期限以降の返金については、申込規約にある当社規定に則り計算した金額を返金いたします (振込手数料はお客様負担)。
- ※各返金制度の詳細は、TAC各校までお問い合わせください。

### ③ 使用課題、教室における交換添削・持ち帰り添削について

講義回数	使用課題	交換添削	講師による持ち帰り添削内容
1	課題1（作図練習課題）	—	持ち帰り添削はなし
2	課題2	—	●初受験者→作図表現を中心に添削 ●受験経験者→作図・エスキスを添削
3	課題3	—	●初受験者→マーカー～1/400エスキスを添削 ●受験経験者→作図・エスキスを添削
4	課題4	○	全課題共通の「添削評価シート」による添削
5	課題5 応用課題5（宿題）	○	
6	課題6 応用課題6（宿題）	—	「模試専用添削評価シート」による添削 →4つの評価（A、B、C、失格）による判定
7	課題7 応用課題7（宿題）	○	全課題共通の「添削評価シート」による添削
8	課題8 応用課題8（宿題）	—	「模試専用添削評価シート」による添削 →4つの評価（A、B、C、失格）による判定
9	課題9 応用課題9（宿題）	○	全課題共通の「添削評価シート」による添削
10	課題10	○	持ち帰り添削はなし。当日の課題10についてのエスキスチェックのみ。

※各教室では、受講生最大15名に対して講師1名が担当し、巡回指導、添削、答案の返却指導等を実施します。

※課題1～10（作図練習課題含む）＋応用課題5～9＝全15課題です。

※WEB通信講座では、課題2, 4, 6, 8の4課題が提出課題(添削対象課題)です。

※教室では巡回指導、図面の添削の他、受講生同士による「交換添削」を行い、他の受講生の作図やエスキスを見る機会を設けます。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①他の受講生の作図やエスキスを見る機会を設けることで学習効果を上げる</li> <li>②図面のチェックをすることに慣れる</li> <li>③添削項目の重要度を理解することで、計画や作図における優先順位を確認する</li> </ul> |
|---|

※各回の宿題は「**実習課題のリトライ**」及び「**応用課題のエスキス**（ある場合）」を基本とします。

※マイページの利用により、講義動画を復習で繰り返し視聴したり、分からない箇所について質問メールを送ることもできるほか、各課題一式がアップされるので、出力して何度も繰り返し課題を解くこともできます。

※「製図用具の使い方」、「作図手順の解説」、「超速作図法」などレベルに合わせた作図動画をご用意しています。

## VI. 開講までの準備

### 1. お申込みはお早めに（定員制のため、既に募集を締め切った教室もございます）

※マイページにアップされている「事前作図練習教材」、「作図動画」により、お申込み後、すぐに「作図の練習」を始めることができます。

### 2. 学習環境の確保（学習場所、職場の理解）

### 3. 製図用具の準備

- ・製図板を早めに購入すること。

マイページに「建築士製図用具セットご案内」が掲載されています。注文から納品まで1週間程度かかります。

- ・特に**テンプレート**の用意。

セットに同封	テンプレート	TACオリジナル
	三角スケール	15cm (30cm もお奨め)
	三角定規セット	
	はけ	
	ドラフティングテープ	マグネットプレートはお奨めしない
	シャープペン	0.5 mm B を標準とする
	ペン型消しゴム	
	シャープペン替え芯	
	字消し板	
電卓	プログラム機能を有しないもの（詳細は受験票を確認）	
道具入れ	※注意 下記参照	
フローティングディスク	定規とテンプレートの下面に貼って図面の汚れを防ぐ	
蛍光マーカー	ピンク、黄、緑、青の4色程度	
フリクションペン（赤・青・緑）	課題文チェック用、完成図の自己チェック用、教室での交換添削用	
ストップウォッチ	集中力を高める必須アイテム（試験会場へは持込禁止）	
A4ファイル	講義録の保管用	
タブレット用手袋	手汗等による図面の汚れを防ぐので、あると便利	
滑り止めマット	製図板の下面に敷き、机からの滑り落ちを防ぐ	

※令和5年試験より、試験当日の携行品に関して「携行できないもの」に「筆記用具等収納ケース」が新たに追加されたのでご注意ください（次頁参照）。

### 4. 「大学」について書籍やインターネットなどで各自調べてイメージしておくこと

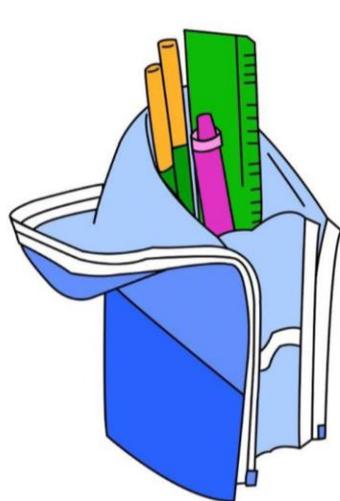
## 5. 試験当日の「携行できないもの」の追加

令和5年から、受験要領において、試験当日の携行品に関して「携行できないもの」に「筆記用具等収納ケース」を追加しました。以下の例示のようなペンケース、ファイルボックス等の筆記用具等を収納できるもの（機能が類似しているものを含む。）は、試験時間中には使用できませんので、机の上に置かず、かばんの中にしまってください。使用した場合は、不正行為とみなし、退場処分となる場合がありますのでご注意ください。

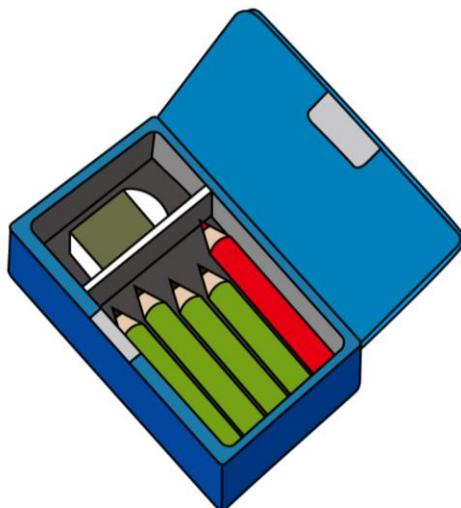
試験時間中は「必ず携行するもの」「携行できるもの」以外のものは、使用できません。

なお、衣類のポケット等を使用して、筆記用具等を収納する行為も不正行為となりますので、十分注意してください。

### ■筆記用具等収納ケースの例示



例 1



例 2



例 3



例 4



例 5

祈合格

適正な価格、質の高いコンテンツで、一緒に合格を勝ち取りましょう！